

北海道大学大学院環境科学院 環境起学専攻
実践環境科学コース

令和2年度4月入学大学院修士課程入学試験問題(春季入試)

専門科目

【開始の指示があるまで、この問題冊子を裏返したり、開いてはいけません】

- この冊子は3頁ある。
- 1問につき1枚の答案用紙を使用すること。
- 答案用紙の表に書ききれない場合は裏を使用すること。
- 答案用紙には科目名と問題番号を記入すること。

令和2年2月20日

小論文

小論文は2問ある。問1および問2に解答せよ。

問1

あなたが行ってみたい「**提案型インターンシップ**」の具体的な案を一つ考え、a)、b)、c)で指示された事項を中心に論理的に記述せよ。

- a) 提案型インターンシップの内容と目的
- b) 環境科学もしくは持続可能性としての意義
- c) 配慮すべきことや、予想される問題点および対処方法

なお、提案型インターンシップとは、あなたが**数ヶ月～半年間程度**かけて「持続可能な社会づくりにかかわる**企画を現場に提案し、議論を重ね、現場の人とともに実施する**」ものです。この提案を入学してから行う必要はありません。

問 2 下記の(2A)、(2B)のうち、1つを選択し、解答せよ。

(2A) 2015年国連総会で採択した「我々の世界を変革する:持続可能な開発のための2030アジェンダ」では、多様な課題が17目標としてまとめられている(表1)。17目標を達成しようとするときに、目標の相互間に、(a)良い効果や好影響(co-benefits)、あるいは、(b)逆効果や悪影響(trade-offs)、といった関係があることが知られてきた。

2つの目標を1組として、3つの組を考え、それらの(a)と(b)について、それぞれ論理的に記述せよ(各組4-10行程度)。なお、ひとつの目標を複数の組に用いてもよい。

- 例: 1組: 目標②と目標⑦の組に対して、(a)と(b)それぞれの関係
2組: 目標①と目標⑩の組に対して、(a)と(b)それぞれの関係
3組: 目標⑧と目標⑬の組に対して、(a)と(b)それぞれの関係

表 1: 2030年までの持続可能な開発目標の17目標

① 貧困をなくそう	⑩ 人や国の不平等をなくそう
② 飢餓をゼロに	⑪ 住み続けられるまちづくりを
③ すべての人に健康と福祉を	⑫ つくる責任 つかう責任
④ 質の高い教育をみんなに	⑬ 気候変動に具体的な対策を
⑤ ジェンダー平等を実現しよう	⑭ 海の豊かさを守ろう
⑥ 安全な水とトイレを世界中に	⑮ 陸の豊かさを守ろう
⑦ エネルギーをみんなに そしてクリーンに	⑯ 平和と公正をすべての人に
⑧ 働きがいも 経済成長も	⑰ パートナーシップで目標を達成しよう
⑨ 産業と技術革新の基盤をつくろう	

(2B) 国連の報告書“Global Sustainable Development Report 2019: The Future is Now – Science for Achieving Sustainable Development”(UN, 2019)には、下のように囲んだ文章と図がある。

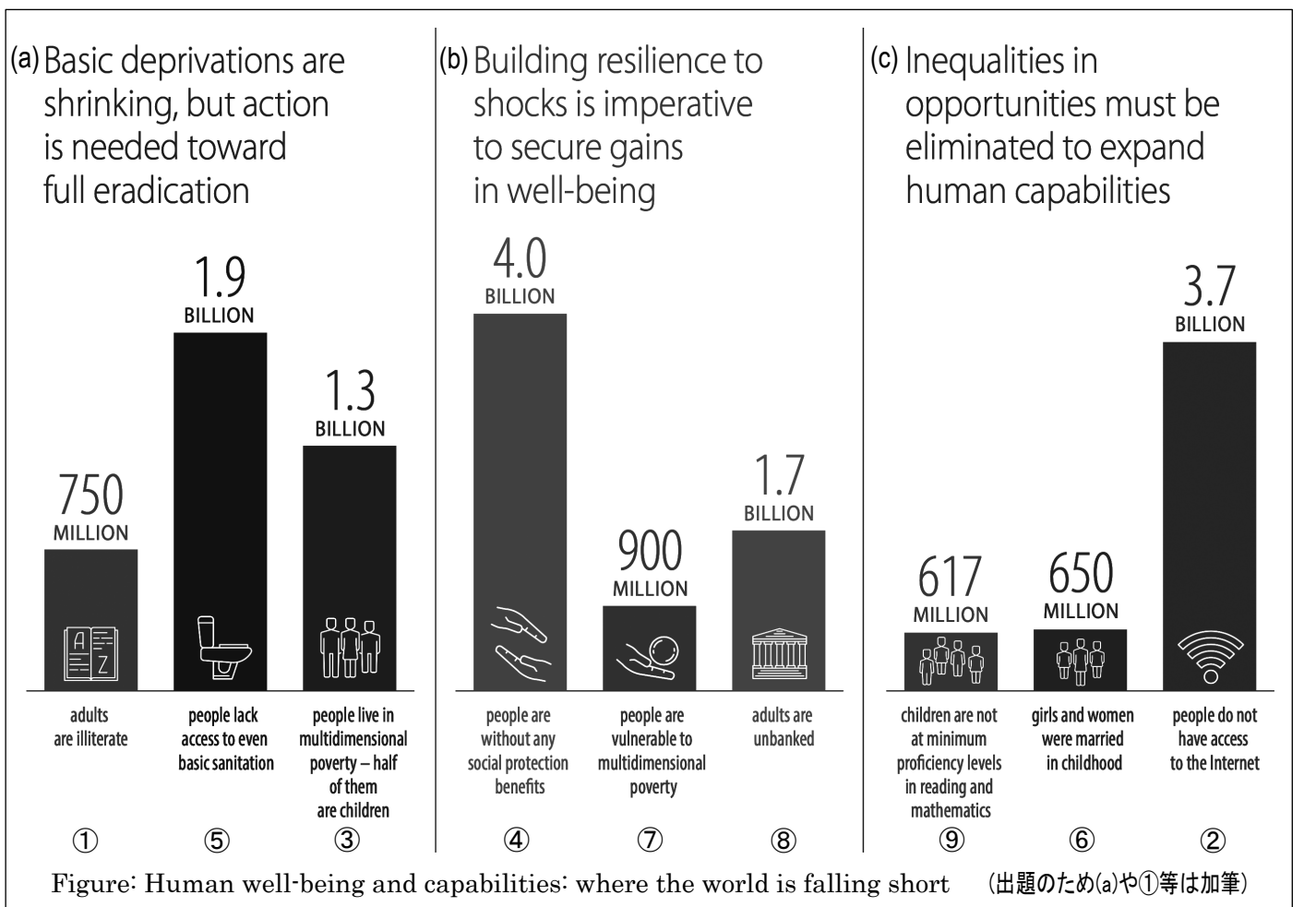
- (i) 9つの指標①～⑨のうち、あなたが注目した3つの指標やその数値について
- (ii) “extreme deprivations”から“well-being”になるために、どのようにすればよいか

下の文章と図から読み取った(i),(ii)についてのあなたの解釈や考えを論理的に記述せよ((2B)全体で15-30行程度)。

参考

- 図中の数値は、該当する人口を表している(例: 1.9 BILLION は19億人を表す)。
- deprivation: 欠乏状態、eradication: 撲滅、imperative: 必須で、断固として、proficiency: 熟達
- 世界および後発開発途上国(LDCs)の人口は、それぞれ約77億人および約10億人である。

In many respects, progress to enhance human well-being has been made. On average, people today are healthier, more educated and have access to more resources than at any time in history. Nevertheless, there are many extreme deprivations (see Figure).



“Global Sustainable Development Report 2019: The Future is Now – Science for Achieving Sustainable Development”(UN, 2019)より

【問題冊子はこちらまで】